

前鬼・小仲坊の行者堂大掃除と取水口改良

◇実施日：2020年12月5日（土）、6日（日）晴

◇参加者：野崎肇・典子、高橋桂太、中前偉（一泊）

生熊敏男、瀧本昭太郎、梶野照雄（5日）

坂野良（6日）

8名

先日の不動峠地藏堂竣工落慶式の際、柴田行者から「小仲坊の行者堂を大掃除するので、お手伝いを願いたい」と要請があり、変則的ではあるが8名が参加してお手伝いをさせて頂いた。



行者堂の大掃除



碑伝の整理



空になった行者堂

11時半に林道ゲートに到着、野崎、高橋両氏はすでに到着してい

た。瀧本さんと生熊さんを待つが、12時になるので小仲坊に向かう。瀧本、生熊の両氏はすでに大掃除の手伝いを始めていた。



仏像や仏具



昼食休憩中



土砂で埋まった取水口

不動峠地藏堂修復保存会の皆さんと上北山村地域おこし協力隊の一名の14名と熊野修験の7名が行者堂の中の物を全て表に出し、仏具磨き、奉納された碑伝の整理、不用品の分別などを行っていた。今までに数えきれないくらい前鬼を訪れているが、空っぽになった行者堂を見るのは初めてだ。

昔、釈迦ヶ岳山頂の祠に安置されていた小さな釈迦如来座像も日があたる場所でゆっくり観察することが出来た。

お手伝いの人数が多いので、私の出番は無いと思い、水源の取水口改良に向かった。瀧本、高橋の両氏が同行してくださいました。

水源に行く途中で前鬼の墓所に立ち寄る。瀧本さんも初めてでさうで一番奥まで進んで写真を撮っておられた。



鉄棒を直す



全貌が現れる



穴あきパイプを差し込む



完成



行者堂で勤行



と説明したが、お風呂に溜まった水は意外にきれいだった。

取水口に到着。案の定、砂利が一杯詰まっていた。砂利を除去して歪んだ鉄棒を引き起こす。用意してきたパイプを当ててみるが若干短いので、長めのパイプを切って穴をあけて取水口の先端に差し込んだ。今まで先端に付けられていた金網は横に出た小さなパイプに差し込んで岩で押さえてフィルターにした。先端に開けた穴とパイプの横にあけた穴とでパイプの直径（75mm）とほぼ同じ面積になっっていると思う。

到着時には排水口までしか無かった中継ドラム缶の水位が満水に近い状態で、取水口の改良は成功したようだ。

導水ホース伝いに小仲坊に戻る。途中の沢を渡る部分の漏水は今回も確認できなかった。

小仲坊に戻ると、五鬼助さんがお風呂に水を入れていた。台所側の水が止まってしまったので、今改良したばかりの水源を使っているとのことだった。掃除したばかりなので泥が混ざっているかも、



行者堂前で



夕食始まる



義峰さんも一緒に

生熊さんと野崎さんご夫妻、中前さんは大掃除の手伝いを続けられて、行者堂は仏具も戻され午後3時前に終了した。



午後3時から大掃除の終わった行者堂で柴田行者を導師に勤行。全員が並んで手を合わせた。勤行が終わって解散、日帰りの人は続々と下山。生熊さんもいつの間にか姿が見えなくなっていた。まだ明るいので11月に倒木を除去した旧道の確認に向かう。残っていた枯枝や落ち葉を掃除して、少し広く見えるようになった。ミツマタが道に根を下ろしているの、次回は根ごと堀上げようと思う。



お酒も進んで



6日の朝



裏行場に出発

小仲坊に戻って行者堂前で写真を撮る。そろそろ帰ろうと思って五鬼助さんに挨拶に行く。「夕食を用意したので、食べてから帰りなさい」と言われて、宿泊の皆さんと一緒に食事する。食事の席で、今日修理した水源のお蔭で食事も作れたし、お風呂にも入れた、と感謝の言葉があった。今日は第62代当主となる五鬼助義峰氏も同席されて約2時間歓談した。

午後8時15分前鬼を後にする。何度も通っているので、真っ暗

な林道にも不安は無いが、夜行性の野生動物には注意が必要だ。前鬼口まで鹿5頭、猪3頭、タヌキ2頭が路上を歩いていった。  
(記：梶野)

#### 行動タイム

12:00 小仲坊↓13:20 水源取水口 14:15↓14:34 小仲坊 20:15↓20:50 前鬼口

以前大日如来の修復や奥駆道巡視のときなど、前鬼に何度か訪問したことがあるが今回は大掃除ということで家内も一緒に参加し、お手伝いさせて頂いた。

家内は取り出した仏像などの手入れ、私は行者堂で仏具の再収納をお手伝いした。仏具類は小さいものまでたくさんあるので、事前に撮ったスマホの写真を見ながら収納を慎重に進めたため、若干時間を費やしてしまった。

その夜は宿泊者全員そろっての夕食であったが、五鬼助さんご家族、行者さん、地元保存会の方々と賑やかに歓談し、楽しい時間を過ごさせてもらった。次の日は朝から雲ひとつない快晴。9時すぎに行者さん、高橋さん他ご一行が三重の滝の行場に行くというのでお見送りした。白い行者装束をきちんとまとい、法螺を吹いての出発であった。私たち夫婦は布団干しや小中坊下段の住宅跡地の枝切りなどお手伝いしたあと、お昼前に帰途についた。

(記：野崎)